

中部山岳国立公園南部地域 利用の高付加価値化に向けた基本構想①

【検討の背景】松本高山Big Bridge構想実現プロジェクト

中部山岳国立公園南部地域を中心に、松本市街地と高山市街地をつなぐ**行政区分にとられない横断的な地域を一つの観光圏として捉えた観光地経営**を行うことで、「**世界水準のディステーションの実現**」を目指す構想。

松本～高山をつなぐエリアを「**Kita Alps Traverse Route**」と名付け、広域観光圏として、地域全体で一体的な旅づくりとプロモーションに取り組んでいる。

Kita Alps Traverse Route



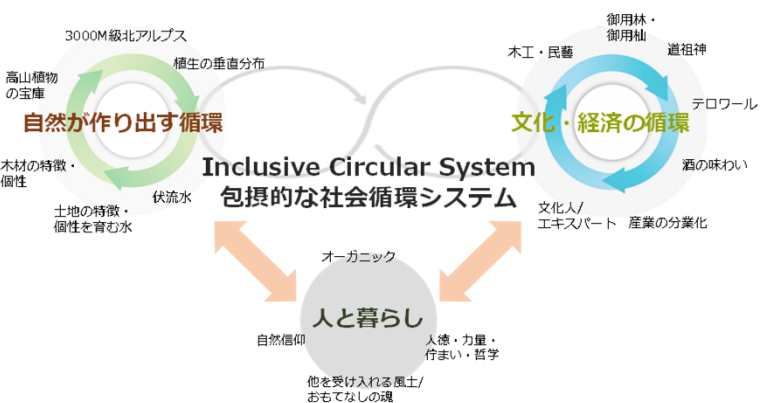
- 本構想の基本理念**
- Kita Alps Traverse Routeならではの**本物の価値に基づく感動や学びの体験を提供する**
 - **環境のみならず、社会・経済の観点からサステナブル・レスポンスブルな観光スタイルを確立することで、保護と利用の好循環に貢献するとともに、経済効果が地域全体に裨益する経済循環を構築することで地域課題の解決を図る**

各地区の高付加価値化の方向性と役割分担

本地域には、自然探勝、登山、アクティビティ、温泉、ゲートと性格の異なる8つの地区が点在。

各地区の役割を明確化するとともに、**地区間のつながりや関係性**を踏まえた上で、それぞれの地区を磨き上げ、**その土地ならではの価値・特徴の発揮**によって、利用の高付加価値化を目指す。

松本・高山エリアのコアバリュー



ワンビジットで松本高山を訪れることで、北アルプスと都市、自然と伝統文化の調和の階層的な変化を体験

【山岳エリア（槍・穂高連峰等）】 登山

登山を経なければ味わうことのできない感動と学びの体験の提供

- 本格登山領域に相応しいレギュレーションとガイドによる山岳利用の上質化を図る。
- ⇒北アルプスの登山文化を担ってきた山小屋を支える仕組みの構築
- ⇒山小屋らしい高付加価値利用の検討

【新穂高温泉】 自然探勝

北アルプスの玄関として幅広いターゲットが登山や自然体験を楽しめるエリア

- 槍・穂高連峰等に登る拠点という性格を明確化。ロープウェイの駅ごとに特徴と魅力を持たせ、体験とターゲットの差別化を図る。
- ⇒ロープウェイと連携した宿泊施設及び駅ごとに特徴ある体験サービスの提供

【平湯温泉】 ゲート 温泉街

多様な利用者を受け入れ、より良い体験をバックアップする温泉郷

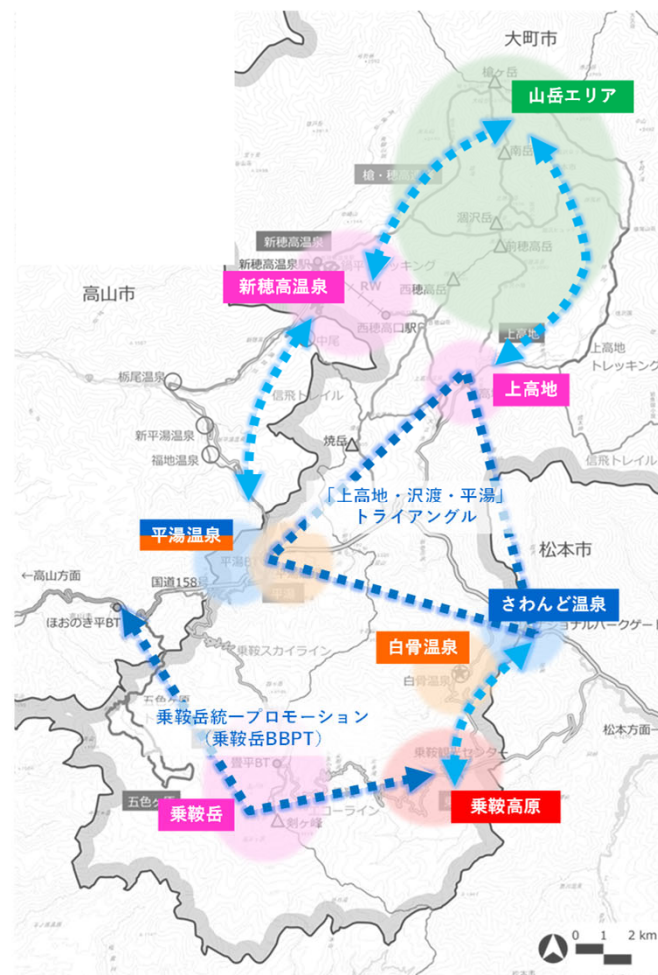
- 交通結節点という好立地かつ、歴史ある湯治場、北アルプスへの眺望などの良好なロケーションを活かした地区の魅力向上を図る。
- ⇒温泉街・各宿泊施設の“平湯らしさ”を追求し、単なるゲートではなく、ここに泊まる意義の向上

【乗鞍岳】 自然探勝

アクセス性の高い3,000m級の高山帯における唯一無二の感動体験の提供

- 高山帯でのみ体験しうる感動体験（眺望、雪深、星空、ライチョウ等）を提供する。
- ⇒3,000m級の山岳地帯での特別な宿泊体験の提供
- ⇒高山帯としての特段の環境配慮

○：利用の高付加価値化の方向性
⇒：宿泊施設の方向性



【上高地】 自然探勝

時代や国籍を超えて人々を魅了する場所であり続ける、**上質な環境の維持・向上**

- 上高地は既に唯一無二の憧れの存在。今後も訪れる人を魅了する場所であり続けるため、地域の質の向上を目指す。
- ⇒土地の魅力を活かした多様な宿泊施設の磨き上げ（高付加価値化）と利用者へのさらなる訴求。

【さわんど温泉】 ゲート

フィールドへ出かける人や物の準備が整えられる、便利で特別感のある拠点

- National Park Gate を中心とした情報発信拠点。上高地のみならず、中部山岳国立公園南部地域の各地区への入口として、ゲート機能を極める。
- ⇒乗換拠点の近くに泊まる・住むことそのものを価値とした宿泊施設・機能の提供

【白骨温泉】 温泉街

「秘湯」を未来に継承し、自然の中で健康を取り戻す体験に富む滞在拠点

- 秘湯としての雰囲気を持続しつつ、宿泊客の健康の維持、回復をキーワードとしたアクティビティの充実を図る。
- ⇒長期滞在できる湯治の温泉地として、温泉・食事・運動・睡眠を組み合わせた宿泊施設の提供

【乗鞍高原】 アクティビティ

乗鞍高原を愛する人々とともに、**温故知新×サステナブルな潜在を満喫する拠点**

- 四季を通じた多彩なコンテンツの提供と持続可能な地域づくりに貢献する。
- ⇒のりくら高原ミライズのビジョンに共感し、乗鞍高原らしさを体現する宿泊施設の提供
- ⇒地域の課題解決にともに取り組み宿泊施設の提供

中部山岳国立公園南部地域 利用の高付加価値化に向けた基本構想②

先端モデル事業の対象とする利用拠点

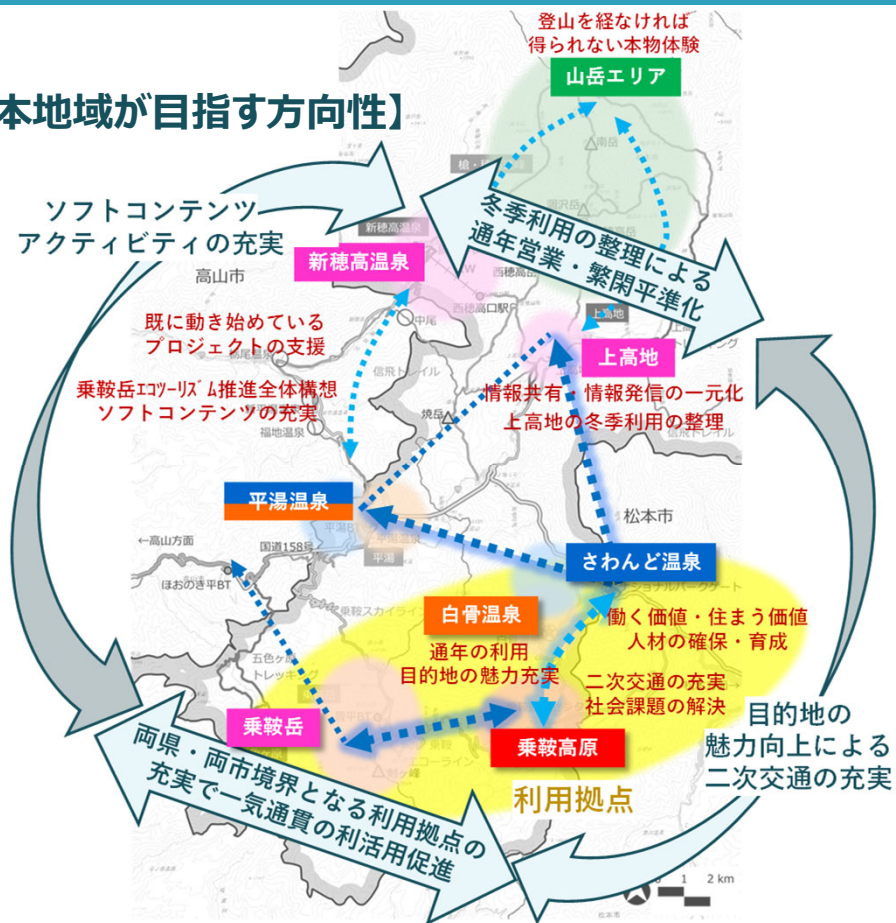
乗鞍岳・乗鞍高原・白骨温泉・さわんど温泉地区を 一体的な利用拠点として選定

- 乗鞍高原及び乗鞍岳において、地域の利用を牽引する核となる宿泊施設の誘致を含む魅力向上について、隣接する白骨温泉及び交通結節点であるさわんど温泉と一体的に検討を行う。
- これにより、異なる個性を有する4つの利用拠点を一体的な拠点と捉え、それぞれの利用拠点の磨き上げと、その相互作用によって高付加価値な滞在体験を提供する。
- 行政界を超えた一気通貫の利用促進、各目的地の魅力向上により、通年利用の推進、二次交通の活性化、雇用確保や従業員宿舍の整備、アクティビティの充実等、**地域が抱える課題解決への貢献**を目指す。

4地区の一体的な磨き上げとその相互作用によって、本地域全体で実現したいこと

- 利用拠点としての乗鞍岳の魅力向上による両県一気通貫での利活用促進
- 旅の目的地としての魅力向上による二次交通の充実
- 上高地の冬季利用の整理による他地区を含む通年営業・繁閑平準化
- 乗鞍岳エコツーリズム推進全体構想に基づくソフトコンテンツ・アクティビティの充実

【本地域が目指す方向性】



将来的な事業の推進体制のイメージ

